

View from Down Under

文・ハイランド真理子

マジックミリオンズセール・プレビュー

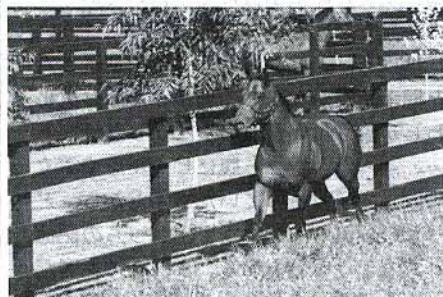
豪州2大セリ始まる

いつもなら、1月のホリデーシーズンに開催されるはずのマジックミリオンズセールとレース。今年はイースター、3月24日からの開催になった。例年この時期は、シドニーのイースターセールが開催される。しかし、今年は馬インフルエンザの影響で4月に延期され、オーストラリアの2大セリは、中1カ月を置いての実施となった。「忙しすぎる」と、生産者の反対もあったが、なにしろ、不測の事態なので、しかたがないところ。そして、このスケジュールで心配されたのは上場数。ところが、今年はその心配をよそに、マジックミリオンズは、1800頭という過去最大の上場数となった。

セリは、3月24日から4日間のプレミアセールと、その後4日間の計8日間開かれる。昨年は1500頭以上の上場があり、そのセリ名簿は、持ち歩くには少々重かった。今年は、それ以上の頭数が揃い、セリ名簿はもっと重くなるのだろうかから、必要なところだけ切り取って持ち歩いている人を見かけることがあるかもしれない。上場の数が多い方が、いい馬を選ぶチャンスがあるのだけれど、セリ名簿の大きさは、とんだところで、コンプレイン(文句)の対象になってしまうものだ。

エクシードアンドエクセル

さて、イヤリングセールの注目馬は、何と言ってもデインヒルの息子のエクシードアンドエクセル。エクシードアンド



デインヒルの後継馬といわれたリダウツチョイスをしのぐ成績を上げる、ダーレー・オーストラリアのホープ、エクシードアンドエクセル(photo:Darley Australia)

エクセルは、2003—04シーズンのチャンピオン・スプリンターであった。ダーレーに買収され、英国遠征を試みたが、怪我のために成績を上げられず、2004年に種牡馬の仲間入りをした。リダウツチョイスに代わるデインヒルの後継馬として、評判となっている。とはいえ、ここ数年間の結果を見なければ、どちらにも軍配は上げられない。種牡馬成績は、勝鞍数でも賞金額でも群を抜いており、現在、リダウツチョイスを抜いて、リーディング2歳サイアーだ。またリーディング・ファーストクロップサイアーにもなっている。

今回のセールでは、最初の4日間に33頭の産駒が上場されている。最近、オーストラリアのスプリントレースを代表するブルーダイヤモンドステークスの前哨戦、ブルーダイヤモンド・プレリュードの牡・騾馬、牝馬レースで、産駒がそれぞれ、優勝馬と2着馬を出し、2月23日開催の本レースには、4頭を出走させるという快挙となった。これに勝てば、トップ価格を掴むのも夢ではない。リダウツチョイスに代わり、高額で取引されることは明白だ。

今回のセリには、祖母に、オーストラリアを代表する繁殖牝馬のサモンドを持つ牡馬や、1999—2000シーズンの最優秀3歳牝馬の2位に輝いたミスベニマナー(父ブロッコ)を母に持つ牝馬、日本のトーホウアランの近親馬の牡馬などが出ている。

オクタゴナルとロンロ

エクシードアンドエクセルに続くファーストシーズンサイアー2位は、ロンロ。オーストラリアの競馬史に残るチャンピオン馬、オクタゴナルは、大きな期待をされながら、現在種牡馬としてはまだ成功しているとはいえない。しかし、そのオクタゴナルの息子であるロンロは、種牡馬としては、幸先の良いスタートを切った。産駒の獲得賞金額としては、まだエクシードアンドエクセル産駒の半分しか稼ぎ出していないが、父オクタゴナルが期待はずれだった分、息子の活躍が



マジックミリオンズのセリでは、会場で食事を楽しむことも出来る(photo:Magic Millions)

注目されている。

今回上場されているロンロ産駒の中には、G I 優勝馬エピソードを母に持つ牝馬、ヨーロッパから来た名繁殖牝馬エトワールドパリの曾祖母に持つ牝馬、準重賞勝ち馬のステラマリーを母に持つNZ(ニュージーランド)生まれの牡馬などがいる。

また、そのロンロの全兄弟、ニエロの産駒が今年初めて上場されている。ニエロは、現役中、ロンロ程の活躍はしなかったけれど、種牡馬としてロンロに迫る活躍ができるかどうかが見物。今回、G I 優勝馬アバヴデックの半弟と、数々のG I を勝った、スポーツのおいが上場された。

ダーレー・オーストラリア

ダーレー・オーストラリアは、2月9日をスーパーサタデーと呼んだ。その理由は、彼らが繋養しているケープクロス産駒であるシーチェンジと、ファンタスティックライト産駒のミッションクリティカルが、その日に、それぞれ、NZでG I レースに優勝したからだ。ケープクロス産駒の牝馬シーチェンジは、ドバイのデューティフリーに出走予定である。

マジックミリオンズには、このケープクロス産駒が、上場されている。ケープクロスは、オーストラリアでは珍しいグリーンデザート血統。ダーレー自身が上場したアイルランドのペンモルファを母にする牝馬や、フランスのG I 馬チェロキーローズを祖母に持つ良血の牡馬などは注目を集めるに違いない。尚、ファンタスティックライトは、最初の4日間のセリには出されていない。

リダウツチョイス

エクシードアンドエクセルにリーディング2歳サイアーの地位を奪われたからといって、リダウツチョイス産駒が活躍していないわけではない。現在、2歳サイアー・ランキングは2位、全体のリーディングサイアー・ランキングでも6位と健闘。当然、イヤリングには良血馬が揃っている。G I 優勝馬のサバナサクセス、



日本でも、その産駒ロックドウカンブが活躍するレッドランサム(photo:Vinery Stud)

タリーサンダー、ヴィクトリーヴェイン、ザガリアなどのイヤリングが上場された。これらは、100万ドル以上の高値がつけられる可能性がある。

種牡馬になった産駒もいる。今年初めてイヤリングを出すナットアシングルダウトがその一頭。同馬は、オーストラリアの名種牡馬であるローリーズジェスター血統のシングルバーを母に持ち、本馬自身は準重賞レースしか勝っていないが、名種牡馬スニペッツのおいという、素晴らしい血統を誇る。したがって、リダウツチョイスには手が届かない生産者たちの間で人気が出た。プレミアセール4日間で15頭の産駒が上場されている。

チャージフォワードとレッドランサム

オーストラリア人の間では、その勇ましい名前とともにレースでの勇姿がまざまざと思い起こされるのは、チャージフォワード(突撃)。今年はその初産駒が上場された。チャージフォワードは、レッドランサムの息子で、3歳でG Iを勝った一流のスプリンター。近親にもスプリントレースでのG I優勝馬や重賞レース勝ち馬が多数いて、オーストラリア人好みの種牡馬だ。今回のプレミアセールで23頭の産駒が上場されている。中でも(後半の4日間に上場された)、オーストラリアのトップ・チャンピオンで自身が種牡馬にもなっているファルヴェロンのおいは、将来の種牡馬候補として人気が出るに違いない。

さて、チャージフォワードの父のレッドランサムも、産駒10頭がプレミアセールに出された。リダウツチョイス系の牝馬、ターニガールから出た牝馬は血統がいいので、前述の牝馬と同じく、成功すれば種牡馬になるに違いない。

余談だが、オーストラリアでは、最近、種牡馬候補の馬は、最初から、競走馬だけを指す馬と分けて調教される傾向にあり、血統がいい牝馬は、去勢せず競馬をさせる例が増えている。オーストラリアの調教師は、これまで、何かというと、すぐ去勢・去勢と叫んでいた。だから、オーストラリアの牝の競走馬は7割ぐら

いが驕馬だ。しかし、最近の傾向を受けて、オーナーたちも、牝馬を扱うのに慣れている調教師を選ぶようになった。

ザビール

オーストラリアのジェネラル・リーディングサイアー・ランキングの第1位は、NZをベースにするザビールである。昨年、NZの生産者はザビール産駒をオーストラリアのセリで売ることがやめたので、今回上場されたのは、NZで種付けをしてオーストラリアで生まれた馬だ。わざわざNZまで送るのだから、繁殖牝馬も素晴らしいものだ。マジックミリオンズ社のオーナーの一人でジョン・シングルトン氏が生産したザビール産駒は、重賞の勝ち馬オンタイプ牝馬と、祖母が重賞レースを勝っているシャブオブの牝馬。他にも、NSW(ニューサウスウェールズ)州のアマリーナファームが、マイトアンドパワーやマターオブオナー、また香港ダービーや香港マイルを勝ったラッキーオーナーズの近親であるザビールの牝馬を上場する。

初年度の種牡馬

今年期待を集める初年度の種牡馬は、デインヒルの息子エルヴストローム。サークルズオブゴールドという名繁殖牝馬から出て、半弟にやはりチャンピオン馬のハラダサン(父フサイチペガサス)がいて、2004—05シーズンの最優秀国際活躍馬になり、更にドバイのデューティフリー優勝という国際的な名声を得ている。今回のセールには、このエルヴストロームのイヤリングが13頭出された。

もう一頭、初年度種牡馬を紹介したい。やはりデインヒルの息子アルマハール。ドントセイヘイローの娘でNZ産のショードンシングを母に持つ良血馬である。現役中は1200から1800mの距離で重賞を含む勝ち星を挙げている。このアルマハール産駒は、全セリで57頭も上場された。

その他の種牡馬



ストロベリーファームが上場するザビールのイヤリング(母 ON TYPE)

エンコスタデラゴは、リーディングサイアーリストの万年2位。とはいえ毎年2位の席を守っているのは、凄い実績である。産駒の獲得賞金額は、メルボルンカップの優勝が入るので、ザビールが70万ドルほど勝っているが、産駒は、スプリントから長距離までと多彩な活躍をしている。ノーザリーのおいは、今回のセリで、必ずトップ10には入るだろう。

ハゾネットは、米国産だが、チリで繁養され、オーストラリアには2003年にやってきた。日本での産駒は、森秀行厩舎に競走馬が一頭いる。ハゾネットは、賞金額でのセカンドクロップリーディングサイアーになっている。

2位は、ロイヤルアカデミーII産駒のベルエスプリ。勝鞍数では、ベルエスプリとロックオブジブラルタルが並ぶ。スプリンターのファルヴェロンも、勝ち馬を18頭出して、彼らに迫る。ハゾネットのイヤリングには、デザートプリンスのめいにあたる牝馬、アルゼンチンのチャンピオン馬タイマゾフの近親の牝馬、また、ベルエスプリ産駒は、重賞レース勝ち馬スカイウォッチの牝馬、香港で大活躍するセイクレッドキングダム(父エンコスタデラゴ)の近親の牝馬など、全セリで17頭が出されている。

今年のマジックミリオンズは、冒頭に記したように、3月の24日から開催される。馬インフルエンザの甚大な被害を受けた各牧場では、何とか、このセールで、気分も懐も回復したいと望んでいる筈だ。1月のホリデーシーズンに、カーニバルとして発達したマジックミリオンズが、今回は、どのような雰囲気作りをしていくのか楽しみである。価格は、予想では、昨年の20%から30%減だという話もある。イースターマンデーの祝日にレース、その夜のセリ。そうそう、前日の日曜日には、サーファーズのビーチで、マジックミリオンズの花火大会もあるという。気候は恐らく、1月よりは、この時期が最もいい時期である。



ザビールのイヤリング(母 SHOVEOFF)

(photo(2点とも):Magic Millions)